

平成23年度

”札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山溪ルート”

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成22年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート	報告者: 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート運営代表者会議 代表 福士昭夫	2012/3/31
--------------------------------	---	-----------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
共通 項目	<テーマ> 「住んでよし訪れてよしの都市空間」 <活動方針> 地域から積極的に情報発信。日本全 国。世界から訪れる全ての人々を温かくお もてなしする。	紙媒体等による広報	1	南区内情報発信フリーペーパー 「はなぶれす」(※旧称: Ha-na Press)	ルート運営代表者会 議、(発行)(株)Ha-naプ ランニング	H23年6月号、8月号	(毎号約6 万部発行)		従前よりシーニックの取り組みの区民(ルート内)住民への周知を目的に、南区 (ルート内)発行フリーペーパー「はなぶれす」(約6万部発行)にて隔月で情報発信を 行っていたが、8月号から一時休刊となった。 「SAN」は、東海大学の学生が取材・作成する情報誌で、地域のコアな情報が満載 であるが、不定期発行となっている。 ホームページなどから情報を得ない人(高齢者等)もいるため、紙媒体による情報発 信のあり方について、今後、検討を進めていきたい。
			2	南札幌エリア フリーペーパー 「SAN」	東海大学札幌キャンパス 吉村ゼミ「SAN」	平成23年6月、11月発行 (不定期刊行)	6月: 22,000部 11月: 15,000部 (うち、約 13,500部を ルート内の 道新に折り 込み配布)		
		ホームページ等による情報発信	3	指定ルート認定による ルートホームページのリニューアル	ルート運営代表者会議	通年	—		指定ルート認定に併せ、ホームページの名称を新ルート名に変更したほか、「イベン ト情報」の投稿フォームを作成。
			4	ホームページでの イベント情報投稿フォームの開設	ルート運営代表者会議	通年	—		また、地域の身近な活動を伝えるため、各活動団体が直接更新できるブログも開 設。札幌市民への周知を重視して、札幌市民の利用頻度が高いブログサイト「100マイ ル」を選択した。更新頻度が上がるにつれてアクセス数も増加し、より効果的な周知 方法であると感じた。今後も積極的に情報発信をしていきたい。
			5	ルートブログの開設	ルート運営代表者会議	通年	—		
		様々な手法によるルートの魅力PR (PRグッズ、PRマップ等の作成、各イベント等 でのルートPRなど)	6	「花」「学びと体験」「歴史・文化」 マップの作成・配布	ルート運営代表者会議	通年	—		地域資源をカテゴリ(「花」「学びと体験」「歴史」)別に紹介したマップは、今年で3 年目の配布となるが好評であるため、次年度以降はより効果的な配布箇所の検討を 行い周知徹底を行いたい。
			7	「札幌シーニックバイウェイルート認 定記念カレンダー2012」の作成・配 布	ルート運営代表者会議	平成24年1月初旬～2月上 旬	(10,500部 配布)	S A 1	また、ルート指定を記念として、ルート内の魅力的な景観や集客施設を集めたカレン ダーを作成。南区役所やルートメンバーの連合町内会などの協力により、10,500部を ルート内住民を中心に配布した。
			8	缶バッジの作成・配布	ルート運営代表者会議	随時 (各種PRイベント実施日な どにて配布)	(アンケート記載 者に対し、約650 個配布)		新たなグッズとしては、スタンプラリー用スタンプデザインを流用した缶バッジを作成 し、ルート内の集客イベント会場でシーニックPRコーナーを設置し、配布した。
			9	地下歩行空間でのPRイベントの実 施(1)	札幌開発建設部 札幌市保養センター駒 岡 滝野すずらん丘陵公園 定山溪観光協会 道立真駒内公園 札幌芸術の森 札幌振興公社 札幌観光公社	平成23年4月28日～10月31 日、(*駒岡参加:平成23年7 月18日(月・祝))、11月5日～ 12月4日、平成24年1月23日 (月)～3月下旬	主催者側: 約 15名 一般参 考: 約10万人 以上、1日平 均400人(イベ ント立寄客 数)		平成23年3月より開通した札幌駅前通地下歩行空間にてほぼ年間を通じて札幌開 発建設部が企画主催するイベントに参加しPRを実施(4月～10月「北海道観光支援 キャンペーン」、11月～12月「シェルフバイウェイ」、1月～3月「北海道みりよく発信プロ ジェクト」)。ルート活動団体が多数参加。スタンプラリーや雪あかりの取組などルート 全体のPRはもとより、各活動団体のポスターやちらしの配布、ルート特産物の展示を 行いルートの魅力を紹介した。特に、7月18日に行われた保養センター駒岡による野 菜などルート特産物の販売は好評で大勢の人が立ち寄った。平成24年1月15日に は、札幌市南区役所が企画し、定山溪観光協会、札幌芸術の森といったルート内の 主要な集客施設・団体による統一的ルートPRイベントを実施。市民及び観光客が大 勢通行する都心部において長期間にわたり継続的にルートの魅力をPRし、認知度の向 上をはかるとともに、参加活動団体間の一体感が醸成された。
			10	地下歩行空間でのPRイベントの実 施(2)	ルート運営代表者会議 札幌市南区役所	平成24年1月15日(日)	主催者側: 約 30名 一般: 参考 約1,500 名(「たまねぎ すずらん」試飲)		
			11	地下歩行空間の「シェルフ・バイウェ イ」の展示	札幌開発建設部、札幌 市立大学デザイン学部	平成23年11月5日～12月4日、 平成24年1月～3月	主催者側: 10 名 一般参 考: 立寄者数 約8000人(1 日平均200～		
			12	地下鉄真駒内駅へのシーニック情 報専用掲示板設置	ルート運営代表者会議 札幌市南区役所	平成23年10月より揭示開 始	—		
		その他	13	札幌市広報番組でのPR (スタンプラリー告知)	ルート運営代表者会議 札幌市南区役所	平成23年6月15日	—		札幌市南区役所の協力により、札幌市の広報番組(ウオッチング札幌(TVh)): 毎週 水曜22:54～22:59放送)にて、ルートの主要な取り組みであるスタンプラリーが紹介 された。
			14	広報さっぽろ7月号 巻頭特集(札 幌歴史的建造物巡り)でのシーニッ クバイウェイ記事掲載	ルート運営代表者会議 札幌市市長政策室広報部	平成23年7月	約98万部		また、広報さっぽろ7月号の巻頭特集の一部にてシーニックバイウェイの取り組みが 紹介されたほか、広報さっぽろ9月号の南区版に、札幌シーニックバイウェイのルート 指定に関する特集記事が掲載された。
			15	広報さっぽろ9月号 南区版での シーニックバイウェイ特集記事掲載	ルート運営代表者会議 札幌市南区役所	平成23年9月	約67,000部 (南区版のみ の発行部数)		
			16	札幌市立大学デザイン学部での講 演	日本建築学会若手奨励 特別研究員会	平成23年8月11日	主催者側: 約5名 一 般参加: 約 50名		札幌市立大学デザイン学部にて、日本建築学会所属の若手研究員が集まった 「シーニックバイウェイとまちづくり」をテーマとした公開研究会にて、代表の福士会長 が札幌シーニックに関する講演を行った。

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート	報告者: 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート運営代表者会議 代表 福士昭夫	2012/3/31
--------------------------------	---	-----------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
景観	<テーマ> 「札幌の玄関口にふさわしい魅力あふれる景観づくり」 <活動方針> ・眺望の優れた場所の整備と活用 ・広域的な花街道づくりとPR ・広域的な幻想空間の創出とPR	モニターツアーの実施(景観)	17	『南区花の見所をプロカメラマンインストラクターと巡る』モニターツアー	(実施企画)ルート運営代表者会議	平成23年7月17日(日)	一般参加: 41名		これまで「花」をテーマにルート内を周遊するモニターツアーを2回実施してきたが、今回は写真撮影を趣味とする人をターゲットとしたツアーを実施。参加者の満足度も高く好評であった。 モニターバスツアーは3年間開催したが、ルートの魅力PRするとともに、参加者アンケートの集約・分析により地域活性化を推進するという当初の目的は達成できたこと、費用対効果の観点を考慮して、次年度からモニターツアーについては実施を見送ることとする。
		花いっぱい運動	18	各地区による沿道花壇の整備	連合町内会ほか、ルート参加団体	随時	-		毎年各地域(各団体)では、沿道花壇への花植活動を継続的に行っている。外から来る方への「おもてなし」とともに、自分たちの地域をより美しくしたい気持ちから活動しているため、良好な沿道景観の形成はもとより、活動を通して地域内外の繋がりが(連携)が広がっている。
			19	植栽交流会	未実施	-	-		苗ポット数の減少や人材・費用面の問題等もあるが、今後も継続的に実施をしていきたい。 ※国道453号への花植を行っている「芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会」が、2010年に『第21回全国「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰』を受賞。
		各地域での「雪あかり」の取り組み、PR	20	『雪あかり連携イベント』 PRチラシの作成・配布、ポスター掲示	ルート運営代表者会議	配布: 12月上旬～2月下旬	(チラシ2,000枚配布)		各地域団体が個別に実施し、PRを行っていたアイスキャンドルやイルミネーションなどのイベントを、シーニックの連携イベントとして統一的にPRするため、ポスター等の作成を行った。 また、雪あかりのイベントは、どの地域もほぼ同時期に開催のため、他地域の実施をみるのが難しい。本年度は、雪あかりの取り組みに関する報告の場として「発表会」を行い、各地域での実施内容、地域連携の形、苦労・工夫した点などの発表を通じて、問題・課題点の把握を行い、団体間の情報共有及び継続的な実施を行う。
			21	『石山スノーファンタジー』 (雪あかり連携イベント)	石山スノーファンタジー実行委員会(石山地区まちづくり協議会)	平成23年12月3日(土)～平成24年3月3日(土)	主催者側: 約100名、一般参加: 3イベント別		
			22	『藻岩地区アイスキャンドル』 (雪あかり連携イベント)	藻岩地区町内会連合会	平成24年1月28日(土)、29日(日)	(開催範囲が広く、集計不能)		
			23	『南沢地区冬まつり』 (雪あかり連携イベント)	南沢地区町内会連合会	平成24年1月28日(土)、29日(日)	-		
			24	『スノーフェスティバルin澄川』 (雪あかり連携イベント)	澄川地区連合会	平成24年2月4日(土)、5日(日)	一般参加: 1,000人		
			25	『定山渓温泉雪灯路2012』 (雪あかり連携イベント)	(社)定山渓観光協会、定山渓連合町内会	平成24年2月6日(月)～12日(日)	一般参加: 3,300人(巡回バス利用者)		
			26	『藻岩下やさしい雪あかり』 (雪あかり連携イベント)	藻岩下地区やさしいまちづくり実行委員会(藻岩下地区連合会ほか)	平成24年2月9日(土)、10日(日)	(未集計)		
			27	『芸術の森地区「雪あかりの祭典」』 (雪あかり連携イベント)	雪あかりの祭典実行委員会(芸術の森地区連合会、札幌市立大学、保養センター駒岡、札幌芸術の森ほか)	平成23年12月中旬～2月中旬			
			28	『雪あかり発表会』	ルート運営代表者会議	平成24年3月28日(水)	主催者のみ約50人		
		その他	29	『南沢ラベンダーまつり』	南沢ラベンダーまつり実行委員会(南沢地区まちづくり協議会、南沢地区町内会連合会、東海大学札幌キャンパスほか)	平成23年7月16日(土)、17日(日)	一般参加: 来場者数約1,500人		南沢地区は日本におけるラベンダー栽培発祥の地の一つとして、沿道及び東海大学札幌キャンパスの畑一面にラベンダーを植えている。 ラベンダーまつりは、今年で5回目の開催。地域と大学が連携し、学生による吹奏楽の演奏や地域特産品の販売などを行っている。 本年度は2日間とも雨天となり、残念ながら過去最低の参加者となったが、2日目にはモニターツアー参加者が立ち寄ったこともあり、賑わいを魅せた。 眺望の優れた場所の整備及び活用として、活動方針を十分満たしている取り組みと考えられることから、今後も継続的に実施していきたい。
			30	環境教育 『ヒグマについて考えるフォーラム』	南沢地区まちづくり協議会、南沢地区町内会連合会、東海大学札幌キャンパス	平成24年2月18日(土)	一般参加: 83名		地域の住民同士での地域課題の共有化を目的に、フォーラムを地域・大学で連携し実施。 今回は初の試みだったため、身近な話題としてヒグマ問題について取り上げたが、当日の悪天候にも関わらず多くの参加をいただいたことから、今後も地域コミュニケーションの場の創出を目指し、地域住民が参加しやすい様々な企画を検討し、実施していきたい。
			31	札幌南ゆきまつりの開催	芸術の森地区連合会	継続検討			札幌雪まつり真駒内(自衛隊)会場にかわる新たなルート内の雪まつり会場の設置を目指す。芸術の森という自然とアートが融合した特徴的な景観を活用し、子どもたちなど地域住民や市民が集い楽しめる冬の空間を創出に向けて企画検討し、関係機関との調整
			32	地域の景観資源の発掘とPR	ルート運営代表者会議	継続検討			そば畑や桜の森など、まだあまり知られていないルート内の美しい景観資源の活用や保全に努め、ルートの魅力としてPRする。
			33	景観に配慮したルートサイン(看板等)のあり方についての検討	ルート運営代表者会議、札幌市立大学	継続検討			ルート内の看板設置状況を把握した上で、ルートを訪れた人がわかりやすく、かつ景観に配慮したルートサインの設置に向けて、検討する。

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート	報告者: 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート運営代表者会議 代表 福士昭夫	2012/3/31
--------------------------------	---	-----------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
地域	＜テーマ＞ 「自然・歴史・文化を伝え、いきいきと暮らせる地域づくり」 ＜活動方針＞ ・環境の保全と活用 ・おいしく安心な食材のPR、地産地消の推進 ・交流と賑わいの創出 ・多様な媒体を活用した情報の発信 ・歴史、文化の紹介 ・健康で安心して暮らせるまちづくり	モニターツアーの実施(地域)	34	『朝日岳と定山渓紅葉散策』モニターツアー	(実施企画)ルート運営代表者会議	実施中止 ※10/15を予定していたがヒグマ出没により中止	中止＊32名 予定		過年度の実施内容にプラスの要素で軽登山を含めた実施を試みたが、実施直前にヒグマが多数出没したことから、やむを得なく実施を中止した。景観モニターツアーの実施同様に、次年度からの実施については終了する。
		地域一斉ゴミ拾い運動	35	『ラブアース・クリーンアップin北海道』への参加	ルート運営代表者会議 (各団体名で参加)	平成23年4月～6月	主催：ルート参加団体 合計 約850人		各地域・団体で清掃活動を行ってきたが、ルート全体の取り組みとして「ラブアース・クリーンアップin北海道」に参加。 主催者側のサイトで参加団体の活動状況を発信しているため、ルート活動のPR効果もある。良好な沿道景観形成を目指す取り組みにも繋がるため、今後も継続的に実施を行っていくとともに、ルートとしてもブログなどによるPRを行っていきたいと考え
		札幌南オータムフェスティバル	36	商店街との連携による取り組み 『オータムフェスティバルin滝野』	国営滝野すずらん丘陵公園、札幌市南区商店街連絡協議会、札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート運営代表者会議、札幌商工会議所豊平支所、滝野公園ボランティア	平成23年9月18日(日)、19日(月・祝)	一般参加：2日間延べ10,121人 (入園者数)	S A 2	ルート活動のPRのため、シーニッククイズの実施、地域特産品やグッズ等の販売、パネル展示、ルート内商店街との連携による出店などを行った。雨天のため一日目の参加者数が少なかったのが残念であるが、来場者に対し、ルートの魅力を広くPRできた。 ※入園者 1日目：2,737人、2日目：7,384人
		自然散策、森林浴	37	自然散策、森林浴	定山渓観光協会ほか、ルート内各団体	随時	-		ルート内各団体により実施。 ルートとしての統一的なPRや団体間の連携が今後の課題。
		農業体験、果物狩り	38	農業体験、果物狩り	八剣山発見隊ほか	随時	-		
		各種イベントでの農産物販売 (朝市の開催ほか)	39	『もりの仲間のこまおか朝市』	札幌市保養センター駒岡	平成23年5月～11月までの毎月第2・4日曜日開催	一般参加：各開催毎 100～250名(天		新鮮な地元野菜や特産品の販売など、各地域(活動団体)で実施。それぞれの地域において、地域の特徴・旬の素材などに合わせて工夫を凝らした内容で実施している。どの会場においても参加者が多いことから、継続した活動と連携を目指し、今後も積極的に実施していきたい。活動方針の「交流と賑わいの創出」の面からみても十分に満たしている事業であると考え。 『森の朝市』は芸術の森地区にて今年度より本格的に活動を開始。札幌シーニックのメンバーとしても平成24年度より正式に加入予定。
			40	『ショッパーズ石山朝市』	石山商店街振興組合	平成23年4月～11月までの毎月第1・3土曜日開催	一般参加：各開催毎約100名		
			41	『もいわした朝市』	藻岩下地区連合会ほか	平成23年5月15日、6月5日、7月3日、9月4日、10月2日、11月6日※全て日曜開催	一般参加：各開催毎約100名		
			42	『森の朝市』	朝市クラブ ※H24年度よりルート活動団体として正式参加予定	平成23年5月20日(金)、7月31(日)～10月30日(日)の毎月第1・3日曜日開催	一般参加：各開催毎約100名		
		その他	30	『ヒグマについて考えるフォーラム』	南沢地区まちづくり協議会、南沢地区町内会連合会、東海大学札幌キャンパス	平成24年2月18日(土)	一般参加：83名		地域の住民同士での地域課題の共有化を目的に、フォーラムを地域・大学で連携し実施。 今回は初の試みだったため、身近な話題としてヒグマ問題について取り上げたが、当日の悪天候にも関わらず多くの参加をいただいたことから、今後も地域コミュニティの場の創出を目指し、地域住民が参加しやすい様々な企画を検討し、実施していきたい。
		地域特産物を活かした賑わいづくり	43	地域特産物を活かした賑わいづくり	八剣山発見隊ほかルート内各団体	継続検討	-		地域でとれる野菜や果物を活用して、地産地消の推進と果物狩りやフォーラムの開催など、地域の賑わいづくりを検討し実施を目指す。

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート	報告者: 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート運営代表者会議 代表 福士昭夫	2012/3/31
--------------------------------	---	-----------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
観光 空間	<テーマ> 「札幌の奥の深さを感じる滞在型の観光 空間づくり」 <活動方針> ・体験メニューの拡充(自然体験、健康、 学習) ・集客施設の回遊性向上 ・特産品の開発、PR	モニターツアーの実施(観光)	44	『札幌シーニック 雪のあしあとモニ ターバスツアー』	(実施企画)ルート運営 代表者会議	平成24年3月30日(金)、31 日(土)	主催者側: 約20名、一 般参加:1 0組 28名		集客施設等の回遊性向上を目指した取り組みとして、ツアーとしてはこれまでに実 施したことなかった、一泊二日の滞在型観光をテーマにしたモニターツアーを実施 し、効果把握を行った。(3月末日実施のため、効果については記載なし)
		スタンプラリーの実施	45	『札幌南シーニックバイウェイスタン プラリー2011』	ルート運営代表者会議	平成23年4月29日(金)～10 月31日(月)	(応募総数) 1,012件	S A 3	3回目の実施となるが、今年度は17か所中10か所のスタンプ押印と応募条件が厳し くなったにも関わらず(前回は15か所中8スタンプ)、応募者数が増加したことから、認 知度が向上していると考える。 ラリー参加者や参加施設の意見などから、内容の充実と、より効果的なチラシ配架 等の検討を行い、継続的な実施を目指したい。
		地域特産品のブランド化	46	『定山溪温泉たまねぎすうぷ』の開 発・販売	(社)定山溪観光協会	通年	H23年度販売実 績 約3万箱		いずれも売り上げ好調で、認知度の向上がうかがえる。 「たまねぎすうぷ」に関しては、定山溪以外でも滝野すずらん丘陵公園にて限定販 売を行った。 今後も、地域連携を図りながら地域のブランドとしての新たな地域特産品の開発を 目指した企画検討をすすめていきたい。
			47	『温たま塩ぷりん』	(社)定山溪観光協会	平成23年10月1日(土)～30 日(日)※土日限定販売	各回60個		
			48	『南沢蜂蜜』	東海大学、札幌この実 会	通年	年間700個		
		森林教室	49	森林教室	ルート内各団体	随時	-		定山溪の小中学生などを対象とした森林教室などを実施した。
		外国人観光客への対応	50	外国語対応パンフレット作成など	ルート内各団体	通年	-		ルート内各集客施設につて、外国語対応のパンフレットなどを作成。
		その他	51	『夏休み特集号 札幌寄り道ドライ ブで感動・体験 自由研究のヒント』の 作成・配布	ルート運営代表者会 議、札幌開発建設部	平成23年7月～8月	印刷部数約 500部、そ 他HPでダウ ンロード対応		ルート内のイベントや体験講座など、ルートの魅力的な地域資源を集め、小学生の 夏休み自由研究のヒントとして紹介することで、ルート内のや体験学習情報を集めた ガイドブックを作成し、札幌駅や地下歩行空間などで配布した。
			52	『定山溪かっぱウイーク』の開催	(社)定山溪観光協会	震災の影響により中止	-		また、回遊性向上及び季節ごとに変化のある地域資源の魅力を発信することを目 的に、活動団体の連携による期間限定のバス運行等を行った。 「紅葉ゴンドラ」については、昨年度の約1万人から4割の増加。 「かっぱライナー号」は、札幌駅から定山溪温泉までの直行便として平成23年12月1 日から運行を開始(前日までの予約制)。これまでより所要時間が15分短縮となり、定 山溪へのアクセスが容易となった。 どの企画においても、ルート内の他施設・資源を繋げ、回遊してもらう工夫をし、地 域に人が入ってくる仕組みを模索していくことが重要であると考え、これらの組み 組みを活かし、今後も継続的に実施したい。
			53	『定山溪紅葉かっぱバス』	じょうてつバス、(社)定 山溪観光協会	平成23年10月1日(土) ～21日(金)	一般参加: 約2,200人		
			54	『定山溪温泉かっぱライナー号』	じょうてつバス、(社)定 山溪観光協会	平成23年12月1日(木) 運行開始 (1日4便:片道2便)	-		
			55	国際スキー場『紅葉ゴンドラ』	(株)札幌リゾート開発 公社	平成23年9月10日(土)～10 月10日(月・祝)	一般参加: 約14,000人		

札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山溪ルート

SA - 1

SAPPORO Scenic Byway Moiwa sanroku Jozankei Route

活動名：札幌シーニックバイウェイルート認定記念カレンダー2012

【概要】 当ルートがシーニックバイウェイ北海道のルートとして認定された記念として、ルートの魅力を広くPRするとともに、シーニックバイウェイの活動を周知することを目的として、各地の「雪あかり」の取り組み、集客施設、景観スポットなど、ルート内の魅力的なスポットの写真を使用したカレンダーを作成。

連合町内会などシーニック参加団体を通じてルート内の住民に配布を行ったほか、南区役所の協力により、南区役所や区内まちづくりセンターでも配架を行った。

また、定山溪の各ホテルやリニューアルオープンした藻岩山展望台などでも配布することで、ルート外の人間も配布対象とした。

【日時】 平成24年1月4日～2月上旬（配布日）

【場所】 ルート内各地

【主催】 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート運営代表者会議

【発行部数】 10,500部



札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山溪ルート

SA - 2

SAPPORO Scenic Byway Moiwa sanroku Jozankei Route

活動名：札幌南オータムフェスティバル

【概要】 ルートの活動団体である滝野すすらん丘陵公園でルートの魅力をPRするイベントを実施。商店街や定山溪観光協会が中心となり、活動団体が連携しルートにちなんだクイズ大会、ルートの歴史紹介、滝野の森の丸太を使った速斬り大会、野菜や蜂蜜などルート特産物の飲食・販売コーナー（ファーマーズマーケット）、定山溪温泉の湯を持ち込んだ「足湯コーナー」を設置するなど、バラエティーに富んだルートの魅力を公園来場者にPRした。

滝野すすらん丘陵公園では、市内ほか小学校等に25万部配布される公園のチラシ、また、札幌、北広島、江別等64万戸に配布される北海道新聞折り込みチラシを制作し、イベント情報として掲載。

初日は降雨の影響で入園者数が少なかったが、天候が回復した翌日は入園者数も7,000名を超え、イベントも大勢の来園者で賑わった。

【日時】 平成23年9月18日(日)～19日(祝)

【場所】 国営滝野すすらん丘陵公園

【参加人数】 10,121人(2日間入園者数)

【主催】 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート運営代表者会議、国営滝野すすらん丘陵公園、札幌市南区商店街連絡協議会ほか



札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山溪ルート

SA-3

SAPPORO Scenic Byway Moiwa sanroku Jozankei Route

活動名：シーニックバイウェイスタンプラリー in 南区2011

【概要】 平成23年4月から10月までの6ヶ月間、定山溪温泉、滝野すずらん丘陵公園など、17スポットをめぐるスタンプラリーを実施。各スポットのほか、札幌駅の観光案内所や札幌駅前通地下歩行空間、JTB首都圏主要30店舗のほか、公共施設、ルート内飲食店等にチラシを配架した（約34,000部）。

昨年が好評だったため、応募条件を2カ所増やし10ヶ所以上をめぐることにすると同時に、景品をルートの特徴をアピールする温泉入浴券、旬の果物、南沢蜂蜜、国際スキー場紅葉ゴンドラ又はリフト券、さらに完全制覇景品を「定山溪温泉ペア宿泊券」ほか7種類、合計170名分に増やした。結果、応募人数が1,000名を超え、完全制覇に至っては応募者全体の約半数に当たる469名、昨年に比べて約2割増加した。

【日時】 平成23年4月29日～10月31日

【場所】 ルート内17カ所観光施設等

【応募総数】 1,012件

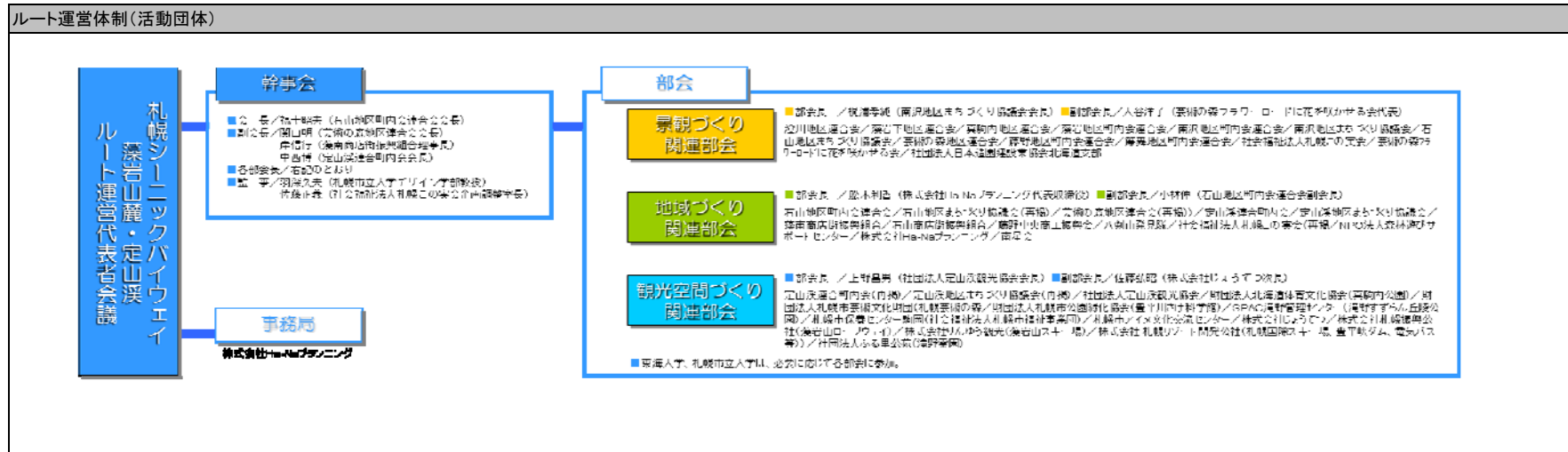
【主催】 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート運営代表者会議



3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート	報告者: 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート運営代表者会議 代表 福士昭夫	報告年月: 2012/3/31
--------------------------------	---	-----------------

活動団体
澄川地区連合会、藻岩下地区連合会、真駒内地区連合会、藻岩地区町内会連合会、南沢地区町内会連合会、南沢地区まちづくり協議会、石山地区町内会連合会、石山地区まちづくり協議会、芸術の森地区連合会、藤野地区町内会連合会、篠井地区町内会連合会、定山渓連合町内会、定山渓地区まちづくり協議会、藻南商店街振興組合、石山商店街振興組合、藤野中央商工振興会、八剣山発見隊、社会福祉法人札幌この実会、芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会、NPO法人森林(もり)遊びサポートセンター、(社)日本造園建設業協会北海道支部、南星会、東海大学、札幌市立大学、(社)定山渓観光協会、道立真駒内公園(一般財団法人北海道体育文化協会)、札幌芸術の森(財)札幌市芸術文化財団、札幌市豊平川さけ科学館(財)札幌市公園緑化協会、国営滝野すずらん丘陵公園(SPAC滝野管理センター)、札幌市保養センター駒岡(社会福祉法人札幌市福祉事業団)、札幌市アイヌ文化交流センターサッポロピリカコタン、藻岩山展望台ほか(株式会社札幌振興公社)、藻岩山スキー場(株式会社りゅう観光)、札幌国際スキー場、豊平峡ダム(株式会社 札幌リゾート開発公社)、真駒内滝野霊園(社団法人ふる里公苑)、株式会社じょうてつ、株式会社Ha-Naプランニング (計: 37団体)



	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議(全体会議)						● 9/2							
	幹事会					● 8/19						● 2/16		
	各関連部会			H23第1回 ●6/9景観 ●6/17観光 ●6/22地域			H23第2回 ●9/26地域 ●9/30景観	H23第2回 ●10/5観光 H23臨時 ●10/27景観	H23第3回 ●11/30景観	H23第3回 ●12/5観光 ●12/7地域		H23第4回 ●2/22景観 ●2/24地域 ●2/27観光		

ルート名称: 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓	報告者: 札幌開発建設部	報告年月: 2012/3/31
-----------------------------	--------------	-----------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	行政連絡会議							●10/6 ※支笏洞爺恵庭 ルートと合同開催	行政連絡会議 関係機関ヒア リングの実施	雪あかりの取組につ いて情報共有とPR協 力連携 来年度業務連携につ いて情報交換	雪あかりの取組につ いて情報共有とPR協 力連携 来年度業務連携につ いて情報交換	来年度業務連 携について情報 交換	来年度業務連 携について情報 交換	

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称:札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート	報告者:札幌開発建設部	報告年月:2012/3/31
-------------------------------	-------------	----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成23年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
共通項目	<テーマ> 「住んでよし訪れてよしの都市空間」 <活動方針> 地域から積極的に情報発信。日本全国。世界から訪れる全ての人々を温かくおもてなしする。	南区内情報発信フリーペーパー「はなふれず」(※旧称:Ha-na Press)の企画協力	H23年6月号、8月号	札幌市	シーニックの取り組みの区民(ルート内)住民への周知を目的に、南区(ルート内)発行フリーペーパー「はなふれず」(約6万部発行)にて隔月で情報発信、企画協力を行っていたが、8月号から一時休刊になった。「SAN」は、東海大学の学生が取材・作成する情報誌でPRや配布を協力。シーニック関係も含め地域情報が満載であるが、不定期発行のため、現在のところ、紙媒体による定期的な情報発信が途絶えた状況である。 高齢者等、紙媒体から情報を得る方への情報発信をどうするか、今後検討を準備したい。		1
		南札幌エリアフリーペーパー「SAN」の配布等PR協力	平成23年11月発行(不定期刊行)	札幌市			2
		ルートホームページのリニューアル、イベント情報投稿フォームの開設、ルートブログの開設と情報発信における企画運営、PR協力	通年	札幌市	シーニックの取り組みについての周知徹底、地域の顔のみえる情報提供を行うため、「イベント情報」の投稿フォームを作成。各活動団体が直接更新できる新たにブログも開設。まずは札幌の人知ってもらうため、札幌の人がよく閲覧するブログサイト(100マイル)を選択。アクセス率も多く効果的な周知方法であるため今後も積極的に情報発信に協力していきたい。		3
							4
							5
		「花」「学びと体験」「歴史・文化」マップの配布・PR協力	通年	札幌市 札幌開発建設部	地域資源をカテゴリー(「花」「学びと体験」「歴史」)別に紹介したマップを市内各地で配布。3年目の今年は札幌駅前通地下歩行空間や行政連絡会議を通じて関係行政機関にも配布。次年度以降はより効果的な配布箇所の検討を行う。		6
		「札幌シーニックバイウェイルート認定記念カレンダー2012」の作成・配布に係る企画、PR協力	平成24年1月初旬～2月上旬		指定ルート認定を記念として、ルート内の魅力的な景観や集客施設を集めたカレンダーを作成。10,500部をルート内住民及び関係行政機関等に配布した。		7
		ルートPR用缶バッチの作成・配布に係る企画、PR協力	随時 (各種PRイベント実施日などにて配布)	札幌市	スタンプラリー用スタンプのデザインを用いて製作した缶バッチを地域内イベントなどで配布しPRを行った。		8
		札幌駅前通地下歩行空間でのルートPR	平成23年4月28日～、平成23年7月18日(月・祝)、1月23日(月)～2月下旬	札幌開発建設部	4月～10月札幌開発建設部主催「北海道観光支援キャンペーン」、翌年1月～3月同じく「北海道みりよく発信プロジェクト」において、スタンプラリーや雪あかりのちらし配布やポスター掲示のほか、各活動団体のPR、特産品の販売など札幌都心部においてルート認知度向上に貢献した。		9
		札幌駅前通地下歩行空間でのルート活動団体連携によるPR	平成24年1月15日(日)	札幌市 札幌開発建設部	ルート指定を記念し、札幌市南区役所が主体となりPRイベントを企画実施。体験や特産品購入など魅力あふれるブースを設置。札幌開建は備品貸し出し及び設置協力、PR参加。活動団体が連携して参加、団体相互の一体感を醸成。		10
		シーニックバイウェイ情報発信スペース「シェルフ・バイウェイ」の設置によるルート紹介及び活動PR	平成23年11月5日～12月4日 平成24年2月～3月	札幌開発建設部	地下歩行空間における美しい景観のあり方を考慮したアートのシーニックバイウェイPR用展示棚を設置。ルート概要や活動PRポスター、ちらし、写真、特産物を展示。若者をはじめ、子どもから高齢者まで、幅広い層にシーニックをPRした。なおデザイン及び製作にあたりルート活動団体の札幌市立大学と協力した。		11
		地下鉄真駒内駅へのシーニック情報専用掲示板設置	平成23年10月～	札幌市	地下鉄真駒内駅にシーニック専用情報掲示板を設置。今後とも有効的に活用していきたい。		12
		札幌市広報番組でのPR(スタンプラリー告知)	平成23年6月15日	札幌市	札幌市の広報番組(ウオッチング札幌(TVh):毎週水曜22:54～22:59放送)にて、ルートの主要な取り組みであるスタンプラリーを紹介。		13

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート	報告者: 札幌開発建設部	報告年月: 2012/3/31
--------------------------------	--------------	-----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成23年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
		広報さっぽろ7月号 巻頭特集(札幌歴史的建造物巡り)でのシーニックバイウェイ記事掲載	平成23年7月	札幌市	また、広報さっぽろ7月号の巻頭特集の一部にてシーニックバイウェイの取り組みを紹介したほか、広報さっぽろ9月号の南区版に、札幌シーニックバイウェイのルート指定に関する特集記事を掲載した。		14
		広報さっぽろ9月号 南区版でのシーニックバイウェイ特集記事掲載	平成23年9月	札幌市			15
		札幌市立大学デザイン学部でのシーニック講演会の企画調整、PR支援	平成23年8月11日	札幌市 札幌開発建設部	札幌市立大学デザイン学部にて、「シーニックバイウェイとまちづくり」をテーマとした公開研究会で代表の富士会長が札幌シーニックに関する講演を行うにあたり協力、調整、開催PRと参加聴講。		16
景観		『南区花の見所をプロカメラマンインストラクターと巡る』モニターツアーに係る企画、PR協力	平成23年7月17日(土)	札幌市	ツアーの実施に当たり札幌市で企画、PR協力を行ったほか、札幌開発建設部では地下歩行空間にてちらしの配布を行った。	・指定ルートとなった今年度は、札幌開発建設部としては、3月に開通した地下歩行空間を拠点に、市内、道内、道外からの観光客をターゲットに、札幌都心部において年間を通じてルートの認知度向上のためのPR活動を積極的に実施した。 また、行政連絡会議の発足を機に、関係行政機関にヒアリングを実施し、活動内容と関係機関との連携可能性を探り、情報共有を図り、今年度は雪あかりの取組においてPR支援にむけて調整を行った。また、今後の連携にむけて随時情報共有を行っている。 ・これまでもルート支援の中心的役割を担ってきた札幌市南区役所では、HPや広報誌、新聞等報道機関の活用、カレンダーやバッジなどPRグッズの開発、PRイベントの実施に協力し、活動団体と連携を密にしながら地域に根ざした情報発信を積極的に行い、地域内を中心にルート認知向上をはかり、地域の人々の理解と関心を深めるために積極的に支援を行った。	17
		各地区による沿道花壇の整備	随時	札幌道路事務所 札幌市	植栽花苗の提供(国道)、活動PR		18
		『雪あかり連携イベント』PRチラシの配布、ポスター掲示、HP等での開催通知	配布：12月上旬～	札幌開発建設部、全道開発建設部、札幌道路事務所、滝野すずらん丘陵公園事務所、千歳道路事務所、札幌市、運輸局、北海道ほか行政連絡会議関係機関	各地域団体が個別に実施、PR周知を行っていたアイスクャンドルやイルミネーションなどのイベントを、連携イベントとして統一的にPR行った。札幌駅や地下歩行空間など市内都心部のみならず、行政連絡会議の参加行政機関をはじめ、市外にある他の開発建設部、道の駅、大学、ホテルなどの集客施設にも幅広くポスター掲示やちらしの配布を行った。		20
		『石山スノーファンタジー』(雪あかり連携イベント)PR、参加	平成23年12月3日(土)～平成24年3月3日(土)				21
		『藻岩地区アイスクャンドル』PR、参加(雪あかり連携イベント)	平成24年1月28日(土)、29日(日)				22
	＜テーマ＞ 「札幌の玄関口にふさわしい魅力あふれる景観づくり」 ＜活動方針＞ ・眺望の優れた場所の整備と活用 ・広域的な花街道づくりとPR ・広域的な幻想空間の創出とPR	『南沢地区冬まつり』PR(雪あかり連携イベント)	平成24年1月28日(土)、29日(日)				23
		『スノーフェスティバルin登川』PR(雪あかり連携イベント)	平成24年2月4日(土)、5日(日)	札幌市 札幌開発建設部	札幌駅前通地下歩行空間でのポスター掲示やちらし配布、HPでの紹介、行政連絡会議関係機関への開催周知、シーニックバイウェイ支援センターへの情報提供及びHPでの広報依頼など支援。キャンドル点灯等の手伝いやイベント参加。「ゆきみらい2012」論文で活動紹介。		24

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称:札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート	報告者:札幌開発建設部	報告年月:2012/3/31
-------------------------------	-------------	----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成23年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
		『定山渓温泉雪灯路2012』PR、参加 (雪あかり連携イベント)	平成24年2月6日 (月)～12日(日)			・地域活動への支援体制としては雪あかりの取組をはじめとする人的協力(活動参加・連携協力)も継続実施している。	25
		『藻岩下やさしい雪あかり』PR、参加 (雪あかり連携イベント)	平成24年2月9日 (土)、10日(日)				26
		『芸術の森地区「雪あかりの祭典」』PR、参加 (雪あかり連携イベント)	平成23年12月中旬 ～2月中旬				27
		『雪あかり発表会』の企画開催及び参加	平成24年3月28日 (水)	札幌市 札幌開発建設部	活動団体が相互の取り組みを報告し来年度の活動にむけて情報共有する場として札幌市が「発表会」を企画。札幌開発も参加。	・今後も、継続して活動が出来るよう、活動団体との情報交換を図り、行政連絡会議と情報共有しながら、地域内外の人々に活動に対する関心が高まるよう認知度向上にむけて様々な機会を活かしてPR支援すると同時に、活動団体の自主性を尊重しながら、企画や調整、参加、相談などの直接的な支援も継続して行っていきたい。	28
		『南沢ラベンダーまつり』PR	平成23年7月16日 (土)、17日(日)	札幌市 札幌開発建設部			29
地域	<テーマ> 「自然・歴史・文化を伝え、いきいきと暮らせる地域づくり」 <活動方針> ・環境の保全と活用 ・おいしく安心な食材のPR、地産地消の推進 ・交流と賑わいの創出 ・多様な媒体を活用した情報の発信 ・歴史、文化の紹介 ・健康で安心して暮らせるまちづくり	『朝日岳と定山渓紅葉散策』モニターツアーの企画調整及びPR協力	実施無し ※10/15を予定していたがヒグマ出没により中止	札幌市	企画、調整、PRにおいて協力支援を行った。実施直前に熊出没により中止となったが新聞にも記事が掲載され多数の応募があり取組に対する関心が高いことがわかった。		30
		『ラブアース・クリーンアップin北海道』への参加のPR	平成23年4月～6月	札幌市	活動状況についてHP等で報告		31
		商店街との連携による取り組み 『オータムフェスティバルin滝野』の開催支援、PR	平成23年9月18日 (日)、19日(月・祝)	札幌市 滝野すずらん丘陵公園事務所	イベント開催にあたり、ちらしの配布等PR、場所の提供、備品の貸し出し等協力支援を行い、PRに貢献した。		32
		『ヒグマについて考えるフォーラム』での後援とPR	平成24年2月18日 (土)	札幌市 札幌開発建設部	後援及び開催PR		40

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称:札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート	報告者:札幌開発建設部	報告年月:2012/3/31
-------------------------------	-------------	----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成23年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
観光	<テーマ> 「札幌の奥の深さを感じる滞在型の観光空間づくり」 <活動方針> ・体験メニューの拡充(自然体験、健康、学習) ・集客施設の回遊性向上 ・特産品の開発、PR	『札幌シーニック 雪のあしあとモニターバスツアー』参加	平成24年3月30日(金)、31日(土)	札幌市 札幌開発建設部	企画・調整、PR協力、ツアースタッフとして協力参加		41
		『札幌南シーニックバイウェイスタンプラリー2011』PR支援	平成23年4月29日(金)～10月31日(月)	札幌市 札幌開発建設部	道内外に幅広くちらしの配布を依頼した他、地下歩行空間でPRを行うなどルートの認知度向上に貢献。		42
		『定山溪温泉たまねぎすうぷ』のPR	通年	札幌市 札幌開発建設部	ルートの特産品として、地下歩行空間での試飲や販売、掲示などPRを積極的に行った。		43
		『温たま塩ぶりん』PR	平成23年10月1日(土)～30日(日)※土日限定販売	札幌市	ルートの特産品としてPRを積極的に行った。		44
		『南沢蜂蜜』ほかPR	通年	札幌市 札幌開発建設部	ルートの特産品として、地下歩行空間での試飲や販売、掲示などPRを積極的に行った。		45
		『夏休み特集号 札幌寄り道ドライブで感動・体験 自由研究のヒント』の作成・配布	平成23年7月～8月	札幌開発建設部	「夏休み自由研究のヒント」として夏休み期間に実施されるルート活動団体などのイベントや体験学習をまとめ情報誌を作成。地下歩行空間や札幌駅で配布。ルート及び支援センターHPでもPR、家族連れや観光客をターゲットにルート情報を発信。		48
		『定山溪紅葉かつぱバス』PR	平成23年10月1日(土)～21日(金)	札幌市	活動PR支援		50
		『定山溪温泉かつぱライナー号』PR	平成23年12月1日(木)～運行開始(1日4便:片道2便)	札幌市	活動PR支援		51
		国際スキー場『紅葉ゴンドラ』PR	平成23年9月10日(土)～10月10日(土・祝)	札幌市 札幌開発建設部	地下歩行空間でのちらしの配布をはじめ、道の駅のイベントとの連携などPRのための企画調整。行政連絡会議視察でルートの新たな地域資源として紹介。		52

5. 平成22年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称:札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート	報告者:札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート運営代表者会議 代表 福士昭夫	報告年月:2012/3/31
-------------------------------	--	----------------

平成22年度活動報告への助言	平成23年度 状況報告	備考
○優れた景観資源の有無及び地域資源の優位性について 札幌という大都市景観、郊外部の農村景観、滝野すずらん丘陵公園、札幌市民の心のオアシス「藻岩山」、清流「豊平川」に沿った景観、奥座敷「定山溪温泉」の佇まい、中山峠、支笏湖へ至る山間の道など、大都市の直近にこれだけ豊かで、多様性に優れた景観資源を持っていることは、「世界に通用する」という自信をもってよいほどである。本ルートは、都市文化と田園空間が交流する場を創り出すグローバルな“景観資源”を有している。さらには、定山溪温泉、全国ブランドとなっているオリンピック記念公園と施設、及びそれを利用して展開されている各種のイベントやレクリエーション活動などにも優れている。また、エドウィンダンや札幌軟石の存在など歴史性や音楽や彫刻などの芸術を気軽に楽しめる環境と雰囲気にも恵まれていることも優位性の一つである。まさに、世界都市・札幌の具体的な姿を体験できる、五感で感じる事が出来る資源を持っている。 また、<u>新千歳空港から近く、大都市札幌の一部であるということ、支笏洞爺ニセコルートと近接しているという地理的な資源も忘れてはならない。</u>	○地理的な優遇性を活かした取り組み 沿道景観の質の向上に繋がる取り組みとして、<u>花植活動や清掃活動、冬期にはアイスクャンドルやイルミネーションなどの「雪あかり連携イベント」を実施した。</u>当ルートは、支笏洞爺ニセコルートに隣接し、国道も繋がっている。特にウエルカム北海道エリアについては、良好な沿道景観形成に関する取り組みとして、上記3点が同様になされているため、ルートの垣根を越えた情報交換を行いたい。本年度は当ルートが夏に指定を受けたこともあるため、次年度以降に実施したいと考える。また、ウエルカム北海道エリアにおいては、北の玄関口である新千歳空港を有するため、そこから当ルートへのアプローチの方法なども、検討していきたいと考える。 当ルートは、人口190万人の住む大都市札幌に位置し、中心部から車で約30分、新千歳空港からでも1時間ほどで乗れる距離にありつつも、都市景観と自然とが調和する魅力的なエリアである。美しい景観資源とあわせ、様々な体験・集客施設が点在しており、<u>これらを回遊いただき、魅力を伝えるための手段として、前年度までの実施結果を踏まえ、バージョンアップした形の「スタンプラリー」を実施した。</u> 年々チラシの配架箇所も増え、応募者の数も増えているため、市民等への周知はされてきたところであるが、これまでは、札幌市内の観光案内所や区内の集客施設等を中心に配布していたため、<u>次年度からは、道内外からの観光客を意識した配架箇所として、新たに新千歳空港やレンタカー事業所への配布するなど、ドライブ観光客を視野にいれ、幅広く南区の魅力をもPRしていくことを検討している（スタンプラリー2012は、4月末頃から開始予定）。</u>	
○景観の質の向上、ルートのブランド化、地域の活性化について 自然資源を活用した周遊プランなどが良く工夫されているとともに、地域資源の発掘や景観診断、住民の手からなるフワロードなど、活動団体の取組自身が景観の資源の向上に役立っている。ただし、<u>本ルートの光景、風景、情景といった景観が、世界に通じ、「世界都市・札幌」、「環境首都札幌」、「創造都市・さっぽろ」を体感できる可能性を有していることから、さらにグローバルな視点からの資源の活用を期待したい。</u> そのためには、<u>大学との連携をさらに進めることや、世界に通じる組織との連携、それらの複合によるこれからの主導的な活動を広げていくことが考えられる。</u>さらには、ツーリズムの質の向上が地域経済の活性化に直結することなどを意識しながら、<u>活動を通じて地域にメリットがでてくるような視点や工夫も、継続的に活動を行うためには必要であり、たとえば、札幌に来て、大体は札幌中心部で帰ってしまう道外の者を、わざわざこのルートまで引っ張るためには、テーマをもたせた情報づくりやその発信を積極的に行っていくべきである。</u>	○情報発信の強化・工夫 毎日数万人が利用する札幌駅前通地下歩行空間でのイベントに参加し、都心部において年間を通じて活動PRを積極的に行った。 また、札幌開発建設部を通じて全道の各開発建設部や札幌市周辺の道の駅に雪あかりの取組などポスターやちらしの配布など情報発信を行った。今後も、札幌開発建設部と連携しながら、札幌都心部、全道に向けての情報発信を継続して行うと同時に、来年度は全道ルートと相互に連携し、全道各地のルート活動情報をルート内や札幌市内でPRする際に協力支援していきたい。 また、より幅広いルート活動の周知のため、<u>新たにブログの開設を行った。</u> ルート内のイベントや活動が伝わるように、ブログ更新頻度をあげ、旅行前に役に立つ観光情報の一つにもなるように、各活動団体が協力して投稿を続けており、アクセス数も増加している。 ○大学機関等との連携強化 札幌市立大学とスタンプラリーのスタンプデザインやルート内での雪あかり連携イベントのチラシ作成やポスター掲示、地下歩行空間での展示、東海大学と活動団体連携によるイベントの開催、札幌市立大学、北海道大学において雪あかりポスターの掲示などPR支援など取り組みを連携して行ってきた。次年度以降は、広報活動に学生の視点を加えることで、<u>ルート運営の更なる強化を図りたいと考えている。</u> ○課題 当ルートでは様々な活動を行っているところではあるが、他ルートとの連携、グローバルな視点での活動などは、1ルートでの活動による実現は困難な面もある。 そのため、開発建設部、行政連絡会議、推進協議会、支援センターと連携しながら取り組んで行きたい。	